

南米[アルゼンチン]



1 農・畜産業の概況

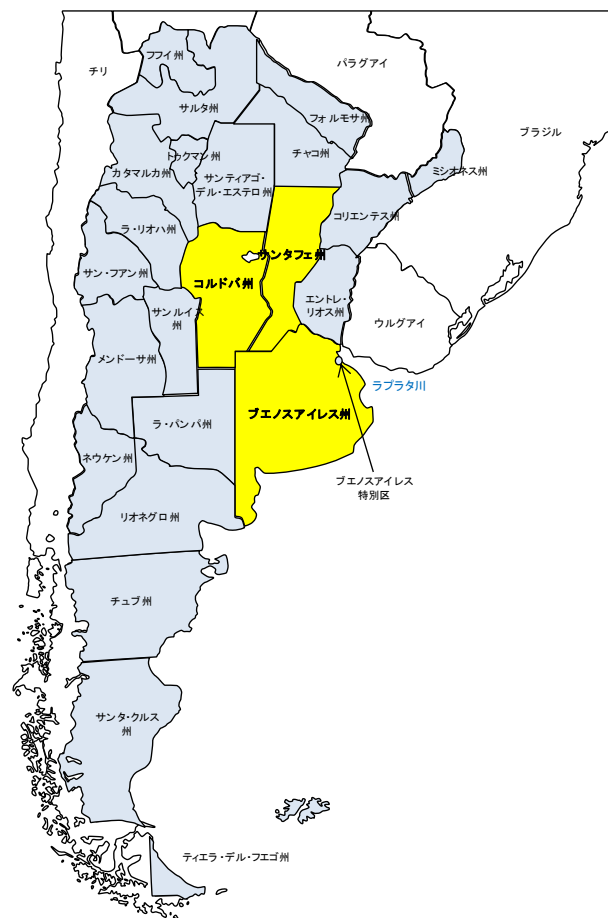
アルゼンチン政府による2020年時点の農牧センサス（2018年）によると、農業経営体25万戸の所有面積は1億5500万ヘクタールとなり、このうち4650万ヘクタールが農地として、1億850万ヘクタールが牧草地として利用されている。ブエノスアイレス州、コルドバ州、サンタフェ州を中心とするパンパ地域は、平たんかつ肥沃な土壤であることに加え、気候も穏やかで降雨にも恵まれており、農畜産物の主産地となっている（図1）。

アルゼンチンの農畜産業は、国内産業に占める比率は国内総生産（GDP）の5%程度であるが、農畜産物輸出額は全輸出額の約6割を占め、農畜産業は外貨獲得上、極めて重要な地位にある。

政策面を見ると、クリスティーナ・キルチネル政権（2007～15年）では、国内優先主義に基づいた輸出規制政策を実施したため、競争力のある一部農業以外の産業は衰退傾向が続いた。輸出志向型のマウリシオ・マクリ政権下（15～19年）では、輸出規制政策が廃止・削減された。しかし、18年前半に50年に1度といわれる干ばつの発生から農業生産は大幅に減少し、自国通貨の急落などの課題に直面したことで経済が低迷した。19年12月に発足したアルベルト・フェルナンデス政権は、輸出規制政策の強化などの政策転換を打ち出した。20年は、18年からの景気の低迷に加え、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大によりさらに景気が悪化し、実質GDP成長率が3年連続

でマイナス成長となった。

図1 アルゼンチンの行政区分



資料：機構作成
注：黄色の州はパンパ地域の中心で農畜産物の主産地。

2 畜産の動向

（1）酪農・乳業

アルゼンチンの酪農は、放牧主体でパンパ地域に集中している。主な生乳生産州は、生乳生産量の3割強を占めるサンタフェ州、次いでコルドバ州（同シェア：3割

程度）、ブエノスアイレス州（同2割程度）である。乳牛の主要品種はホルスタイン種で、全飼養頭数の9割以上を占めるとされる。近年では、放牧に加えてトウモロコシなどの飼料穀物を補助的に給与する飼養形態が一般的となっている。また、一般的に小規模酪農家ほど放牧

の割合が高く、規模が大きくなるにしたがって飼料穀物給与の比率が高くなる。

① 生乳の生産動向

アルゼンチン経済省によると、2020年の生乳生産量は、1111万3200キロリットル（前年比7.4%増）と前年をかなりの程度上回った（表1）。これは、生産者乳価（米ドルベース）の回復により増産意欲が高まったためで、これまでの最大であった15年に次ぐ生産量となった。

なお、月別の生乳生産動向は、春の10月に最も生産量が多くなり、夏場の2～4月にかけて落ち込む傾向にある（図2）。

表1 牛乳・乳製品の需給 (単位:千キロリットル)

区分	2016	2017	2018	2019	2020
生乳生産量	10,292	10,098	10,527	10,343	11,113
輸出量	2,051	1,610	2,322	2,132	2,810
輸入量	44	42	63	85	48
消費量	8,724	8,596	8,436	8,194	8,394

資料:アルゼンチン経済省
注:数値は生乳換算。

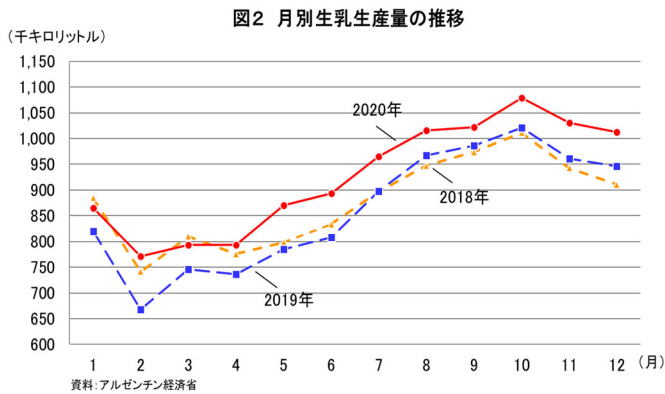


図2 月別生乳生産量の推移

② 牛乳・乳製品の需給動向

2020年の牛乳・乳製品の消費量は、前年比2.4%増の839万4000キロリットルとなった（表1）。

アルゼンチンは、全粉乳の輸出量でニュージーランド、EUに次ぐ世界第3位に位置するなど乳製品の主要輸出国の一つであり、ホエイやチーズの輸出も盛んである。アルゼンチン国家統計局（INDEC）によると、20年の主要乳製品の輸出量は、23万1244トン（前年比23.5%増、製品重量ベース）、輸出額は6億8274万米ドル（同26.3%増）となった（表2）。これは、米

ドルに対するペソ安により価格競争力が高まったことや国内市場における収益性が低下したことなどから、ホエイを除き前年から増加したためであり、主力の全粉乳は、アルジェリアなどの主要輸出先向けが増加した。

表2 主要乳製品輸出量の推移

(単位:千トン)

区分	2016	2017	2018	2019	2020
全粉乳	110	72	119	85	126
チーズ	53	45	43	39	45
ホエイ	65	53	46	42	33
脱脂粉乳	26	20	16	14	14
バター	4	3	3	7	13
合計	257	193	227	187	231

資料:アルゼンチン国家統計局(INDEC)
注:製品重量ベース。

③ 牛乳・乳製品の価格動向

2020年の生産者乳価（乳業メーカーが生産者に支払う生乳1リットル当たりの価格）は、長引くインフレによる物価上昇を反映して上昇傾向で推移した。この結果、年平均乳価は、1リットル当たり19.09ペソ（前年比31.7%高）と前年を大幅に上回った（図3）。ただし、生産者にとっては、インフレの高進により労働費などの生産コストが生産者乳価以上に上昇したため、収益性は低下した。

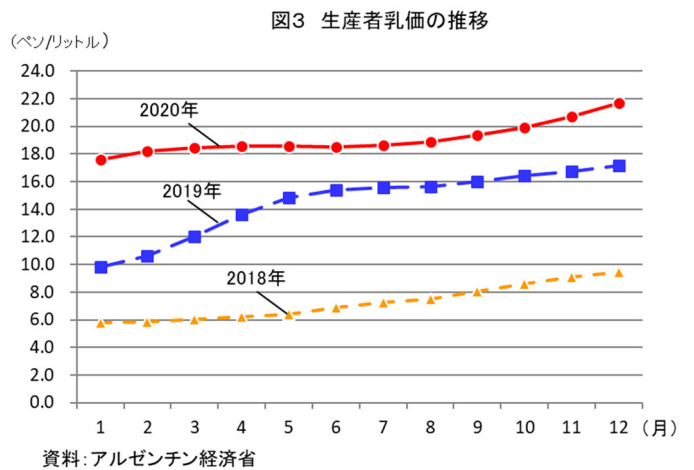


図3 生産者乳価の推移

(2) 肉牛・牛肉産業

アルゼンチンの肉牛生産は、ブエノスアイレス州、サンタフェ州、コルドバ州など肥沃なパンパ地域を中心に、ヨーロッパ系の温帯種であるアンガスを主体とし、ヘレフォードやその交雑種による放牧肥育が一般的である。

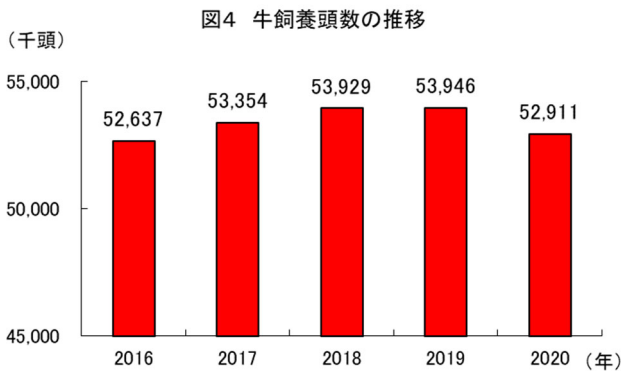
口蹄疫ワクチン非接種清浄地域のステータスは、国際

獣疫事務局（OIE）により、これまで南パタゴニア地域と呼ばれるチュブート州、サンタクルス州、ティエラ・デル・フエゴ州に加え、北パタゴニアB地域と呼ばれるリオネグロ州とネウケン州の一部、さらには北パタゴニアA地域と呼ばれるリオネグロ州、ネウケン州、ブエノスアイレス州の一部が認定を受けている。また、同国のBSEについては、22年5月時点でOIEより「無視できるリスク」と評価されている。

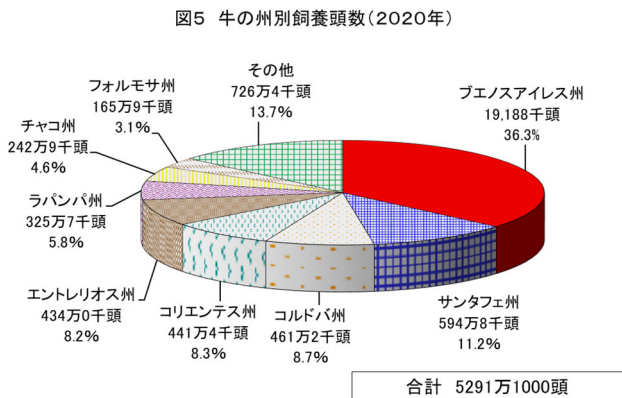
なお、18年6月には、口蹄疫ワクチン非接種清浄地域から日本向けの牛肉輸出が解禁された。

① 牛の飼養動向

牛飼養頭数（乳用種を含む）は2012年以降、国内外の需要回復を受けた価格の上昇により増頭意欲が増したことでおおむね増加傾向で推移してきたが、20年には5291万1000頭（前年比1.9%減）と前年をわずかに下回った（図4）。州別では、ブエノスアイレス州（36.3%）、サンタフェ州（11.2%）、コルドバ州（8.7%）の3州で全体の6割弱を占めている（図5）。



資料：国家動植物衛生機構（SENASA）



資料：SENASA

② 牛肉の需給動向

ア 生産

2020年のと畜頭数は、1400万8000頭（前年比1.0%増）、牛肉生産量（枝肉重量ベース）は317万1000トン（同1.5%増）と4年連続で増加した（表3）。これは、中国向け輸出需要の高まりが背景にある。また、干ばつの影響により経産牛の淘汰が進みと畜頭数が増えたことも一因とされている。

表3 牛肉需給の推移

区分	2016	2017	2018	2019	2020
牛と畜頭数(千頭)	11,720	12,594	13,400	13,873	14,008
生産量(千トン)	2,645	2,838	3,054	3,124	3,171
輸出量(千トン)	230	313	562	846	903
輸出金額(百万米ドル)	1,030	1,303	1,981	3,108	2,727
1人当たり消費量(kg/人/年)	55.4	57.5	56.7	51.4	50.3
去勢牛生体価格(ペソ/kg)	26.4	29.5	37.7	64.4	99.0

資料：アルゼンチン経済省

注：生産量、輸出量、1人当たり消費量は、枝肉重量ベース。

イ 輸出

2019年の牛肉輸出量（枝肉重量ベース）は、90万3000トン（前年比6.8%増）、輸出金額は、27億2700万米ドル（同12.3%減）と輸出量が増加する一方、輸出金額は減少した。

19年12月に発足したフェルナンデス政権では、輸出管理政策のうち、牛肉輸出の最大の障害とされていた輸出課徴金（輸出税）制度（注）下で税率の引き上げが行われた。しかし、このような状況下でも、輸出量は、財政状況の悪化に伴う米ドルに対するペソ安の進行やCOVID-19の影響による国内需要の低迷などにより、輸出量は増加した。

輸出先別では、中国向けが全体の約4分の3を占めた。同国向けは、経済発展に伴う所得の増加等により牛肉の需要が増加していることに加え、18年に同国で発生したアフリカ豚熱の影響による代替需要から輸出が増加した。20年はCOVID-19の影響で一時的に輸出が落ち込んだが、通年では前年を上回った。このほか、18年12月に生鮮牛肉の輸出が再開された米国向けが大幅に増加した。

(注) 輸出課徴金(税)制度は、2001年の同国でのデフォルト(債務不履行)の際、著しい外貨準備高不足に陥った政府が、主力輸出農畜産品であるトウモロコシや大豆、牛肉などを対象に加えたものであった。

また、EU向け輸出は、アルゼンチンにヒルトン枠(一定基準を満たす骨なし高級牛肉に対するEUの関税割当制度、対象年度は7月1日～翌年6月30日)が割り振られている。アルゼンチンへのヒルトン枠全体の年間配分量は、2020/21年度がヒルトン枠5万8476トンのうち2万9500トンと最大数量が割り当てられている。このほか、2020/21年度のホルモンフリー牛肉(肥育ホルモン剤を投与しない牛由来の牛肉)の輸入に関する無関税割当枠(481枠)2万4250トンのうち、アルゼンチンの配分量は5780トンとウругアイ、豪州に次ぐ数量が割り当てられている。なお、同枠は20年から米国が切り離されるとともに、26年に1万トンまで段階的に削減されることとなっている。

ウ 消費

2020年の1人当たり年間牛肉消費量は、50.3キログラム(前年比2.1%減)となった。これは、世界最高水準であるが、16年の55.4キログラムと比較して9.2%減少しており、減少傾向が続いている。

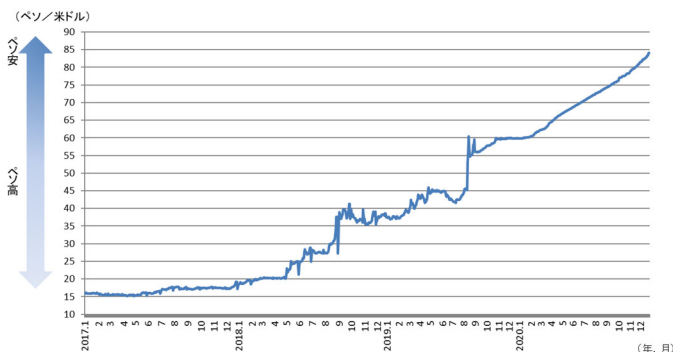
③ 価格動向

主要な家畜市場であるリニエルス家畜市場(ブエノスアイレス市)の2020年の肥育牛(去勢牛)価格は、インフレの影響などにより、生体1キログラム当たり99.0ペソ(前年比53.6%高)と19年に続き大幅な上昇となった。

3 飼料穀物の動向

アルゼンチンのトウモロコシ生産量は、世界の生産量の約4.6%を占める。牛肉生産が放牧中心であることから、トウモロコシの国内消費は生産量の2~3割程度と少ない。また、トウモロコシ輸出量の世界貿易量に占める割合は、2020/21年度(3月～翌2月)は22.4%となり、輸出実績では米国に次ぐ世界第2位となっている。17年以降、米ドルに対するペソ安が急速に進行し価格優位性が増したことや穀物の堅調な国際価格を背景に、生産・輸出意欲が強いことが背景にあるとみられる(図6)。

図6 アルゼンチンペソの対ドルレートの推移



資料：三菱UFリサーチ&コンサルティング株式会社の各日Sellingレートに基づき作成
注：2015年12月17日に為替管理変動相場制に移行。

一方、大豆生産量は、世界の生産量の14%程度を占めており、国際市場に一定の影響力を有している。19/20年度(10月～翌9月)の大豆輸出量は、世界貿易量の6.1%程度である一方、搾油後の大豆かすの輸出量は世界最大となっている。トウモロコシと大豆は作付け時期が近いこと、それぞれの価格動向が作付面積に影響する。

① 政策 ～政権交代前後の変化～

アルゼンチンの輸出登録制度(ROE)は、国内への食料供給の安定と主要な食料品価格の上昇を抑制するため1976年に導入された制度であり、輸出限度数量や輸出許可書の有効期間などが定められていたが、2015年12月のマクリ政権発足後に廃止された。しかし、19年12月に発足したフェルナンデス政権は21年4月、穀物の輸出監視を強化するため、ROEに類似する新たな情報登録措置の導入を発表した。

また、輸出課徴金制度は、02年1月の通貨切り下げ

に伴う大幅な税収減を補完するため、通貨切り下げで恩恵を受ける主要輸出農畜産物に対し設けられたものである。15年12月に発足したマクリ政権は輸出志向型の政策を推進し、大豆など一部を除き輸出課徴金を撤廃したが、18年の経済状況の悪化によりその見直しを余儀なくされた。これに代わり19年12月に発足したフェルナンデス政権は、輸出規制強化など政策転換を打ち出し、トウモロコシや大豆などの輸出課徴金の税率を引き上げた。さらに20年3月には、経済状況が一層悪化する中、税収を確保するため、大豆の税率を再度引き上げた。

② 飼料穀物の需給動向

米国農務省（USDA）によると、2020/21年度のトウモロコシ生産量は5200万トン（前年度比2.0%増）となった。また、大豆は4620万トン（同5.3%減）となった（表4）。

同年度のアルゼンチンの輸出量を見ると、トウモロコシは4094万トン（同12.9%増）、大豆は520万トン（同48.0%減）となった。

表4 主要穀物生産量の推移

（単位：百万トン）

区分/年度		2018/19	19/20	20/21
トウモロコシ	生産量	51.00	51.00	52.00
	輸入量	0.00	0.00	0.01
	消費量	13.80	13.50	9.50
	輸出量	37.24	36.25	40.94
	期末在庫	2.37	3.62	1.18
大豆	生産量	55.30	48.80	46.20
	輸入量	6.41	4.88	4.82
	消費量	40.57	45.92	40.16
	輸出量	9.10	10.00	5.20
	期末在庫	28.89	26.65	25.06

資料：USDA

注：年度はトウモロコシは3月～翌2月、大豆は10月～翌9月。

③ 価格動向

2020年の穀物1トン当たり生産者販売価格は、干ばつ発生の影響により、トウモロコシが1万776.3ペソ（前年比60.0%高）、大豆が1万8509.5ペソ（同63.1%高）となった（表5）。

表5 主要穀物の生産者販売価格

（単位：ペソ/トン）

区分	2016	2017	2018	2019	2020
トウモロコシ	2,444.3	2,437.8	4,253.1	6,735.8	10,776.3
大豆	3,829.1	4,158.2	7,527.7	11,351.5	18,509.5

資料：アルゼンチン経済省